笑顔かがやく光っ子　みんなで育てる光っ子

学校便り

第３７２号
平成２９年６月１日

練馬区立光が丘第八小学校
校　長　　鈴　木　隆　志

四つ葉のクローバー

校　長　　鈴木　隆志

シロツメクサ（白詰草）の名は、１８４６年（弘化３年）にオランダから献上されたガラス製品を包む緩衝材として詰められていたことに由来します。その後、家畜の飼料用として導入されたものが野生化した帰化植物です。今では、公園や野原、八小の校庭でもたくさん見られるクローバーです。シロツメクサをつなげて花冠や腕輪を作ったり、四つ葉のクローバーを探したりと、光っ子たちにも親しみ深い草花でしょう。

四つ葉のクローバーを見つけると、嬉しくなって笑顔がこぼれます。私も、あちこちで、しゃがみ込んで四つ葉のクローバー探しをしています。見つけると幸せが訪れるという伝説があるからです。四つ葉のクローバーには、それぞれの葉に意味があるのだそうです。“勇気・愛情・信頼・希望”、“富・名声・愛情・健康”、“希望・誠実・愛情・幸運”など、諸説ありますが、どの意味も幸せにつながるものです。“光っ子・家庭・地域・八小”で、光っ子たちの幸せにつなげたいと願います。

四つ葉のクローバーは、突然変異によって生まれます。成長の過程で、踏まれて傷付けられたり、あるいは栄養が多すぎたり、日光が足りなかったりして、成長点が刺激されることによって生まれるのです。ですから、人に踏みつけられやすい場所、水辺や日陰で多く見つけることができるのです。つらい状況、困難な状況の先に、幸せが訪れると考えると、人の生き様にも重なって見えてきます。

光っ子たちも、苦しいこと、いやなこと、つらいこと、困難なことから逃げていてはいけません。時には、辛抱、忍耐、我慢といったことも大切です。勉強だって、運動だって、つらく困難な状況を乗り越えた先に、結果が表れてくるのですから。やる気、根気、元気をもち続け、自分の手で幸せをつかみ取ってほしいと願っています。

クローバーの花言葉には「幸福」「約束」「私を思って」「私のものになって」というロマンチックなものが並びますが、「復讐」という何とも恐ろしい花言葉もあります。「私のものになって」という「約束」を破ると、「復讐」が待っているということなのでしょうか。

光っ子たちも、善悪を併せもつ子供たちです。明るく素直で笑顔いっぱいというよさをもつ反面、時には悪さもし、意地悪もし、友達を傷付けることさえあります。そもそも、人の幸せとは、誰かの不幸せの上にあるものではありません。自分だけの満足の上にあるものでもありません。ですから、お小遣いをもらって幸せとか、欲しい物を買ってもらって幸せとか、おいしい物を食べて幸せとか、行きたいところへ連れて行ってもらって幸せとかではないと思います。誰かの役に立っていること、誰かからありがとうと言ってもらえることが、本当の幸せなのではないでしょうか。

私の「四つ葉のクローバー探し」は、光っ子たちの「よいところ見つけ」と似ていると思います。今も１年生の世話をしている６年生、悪さをしている友達にダメだよと言える５年生、校庭に残ったボールを拾ってくれる４年生、困っている友達に「大丈夫？」と優しく声をかけてくれる３年生、「廊下を走っちゃダメだよ。」と友達に注意してくれる２年生、一生懸命に掃除をしている１年生、どの子もみんな、四つ葉の光っ子たちです。四つ葉のクローバーは、１万分の１の確率で表れるとも言いますが、四つ葉の光っ子たちは、次々と現れてくるでしょう。見つけるのが楽しみな毎日です。